

ダイコン（秋まき）

秋まきで旬のダイコンを収穫
培養土の袋をそのまま活用



秋冬採りの青首ダイコン品種「冬自慢」

根が長くて大きなダイコン。コンテナでの栽培は一見難しそうに思えますが、青首ダイコンなら、青首部分は地上に出ていて、根は意外と短いので、30cmほどの土の深さが確保できれば栽培できます。特に培養土の袋（14～20L）は、高さも変えられ栽培にはもってこいです。

冷涼な気候を好みますが、30度ぐらいの暑さでも発芽でき、生育に従い適温は徐々に下がるため、種まきは冬に向け気温が徐々に下がる9月上旬～10月中旬が一番適しています。害虫の多い初期は防虫し、葉の数を増やす頃と根を太らせる頃には追肥しましょう。

秋まき用の品種には年内収穫する秋冬採り、年明け前後に収穫する冬採り、年明け後に収穫する越冬採りがあります。収穫時期に応じた品種を選ぶことも大切です。

【基本情報】

- 分類：アブラナ科ダイコン属
- 原産地：地中海、中央アジアなど諸説
- 発芽適温（地温）：24～28度
- 生育適温（気温）：17～20度
- 日当たり：日なた
- 好適pH：5.5～6.8

【病害虫情報】

キスジノミハムシ：秋まきで10月上旬まで発生し、幼虫が根を食害する。防虫ネットは目が1mm以下のものを使う。

ダイコンシンクイムシ（ハイマダラノメイガの幼虫）、アブラムシ類：気温の高い栽培初期は、害虫が付きやすい。

ダイコンの栽培方法

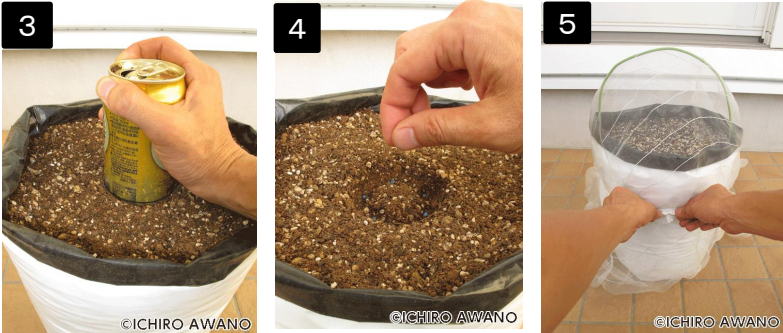
1. 種まき準備

培養土の袋（14L以上）の底の両端を寄せ、結束バンドで結ぶ（写真1）。箸などを使って袋の底に水抜き穴を数カ所開ける。袋をひっくり返し、封を開け、縁を巻き下げればコンテナができる（写真2）。



2. 種まき

土を全て袋から出し、増し土用に1L分をよける。残りの土に化成肥料（NPK各成分8-8-8）約18gとようりん約3gを混ぜ袋に戻す。深さ1、2cmのまき穴を空き缶で開ける（写真3）。穴の周囲へ種を離して5粒まき、土をかけ手で押さえる（写真4）。袋の底から水が出るまで、ジョウロでゆっくり水やりする。



ポイント

防虫のため種まき直後に支柱を渡し、上から防虫ネットをかけ、ひもで縛る（写真5）。

3. 間引き（2回）

最初の間引きは種まき後約1週間で、子葉が十分に開いたら3株にする（写真6）。間引き後は防虫ネットを再びかける。2回目はさらに約2週間後の本葉4、5枚ではさみを使い1株にする（写真7）。この頃、防虫ネットは外す。



ポイント

子葉の数や形、色が異なり、出芽の早晩が強い株、特に2回目は子葉の下の茎（胚軸）が地面から極端に出た株を間引く。

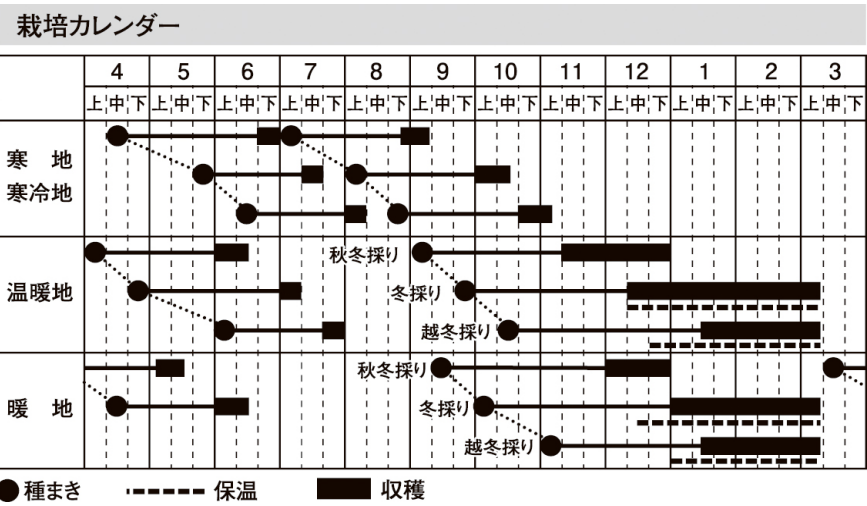
4. 増し土と2、3回の追肥

本葉5、6枚から葉の数を増やし始めるので、株から離して化成肥料（8-8-8）約5gを施し（写真8）、土と混ぜる。このとき、袋の縁を上げて、種まきの際によけた土1L分を足す（写真9）。2回目はさらに約2週間後、根が太り始め本葉15～20枚の頃に同量を追肥する。9月下旬に種まきした場合や冬採り品種は、耐寒性を高めるため1カ月後に同量を追肥する。



5. 収穫

秋冬採り品種で種まき後65～85日、冬採り品種で90～130日ほど。葉が垂れ、中心部分の葉が開いてきたら収穫する（写真10）。



※温暖地を基準に記事を作成しています。